

卒業生の意見を本学の教育・研究の改善に繋げるためのアンケート（今後の対応）

卒業生の皆様から頂いた貴重なご意見ご提案を踏まえて、広島大学の教育・研究、大学運営の充実に向けた取り組みを行うとともに、更なる改善を行いました。

1. 大学生活全般について

本学では、大学生活全般において学生一人一人が社会で通用する基礎力及び実践的応用力を身につけることの重要性を認識しております。

そのための具体的方策として、学生の自発的活動を尊重することを目的とし、授業等の改善、海外留学の推進、地域活動、課外活動及びボランティア活動への支援を行っています。

今後も引き続き、皆様からのご意見等を踏まえ、検証・改善に努めて参ります。

2. 教養教育について

教養教育では「幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する」という教育理念の下で、社会情勢の変化なども考慮し、常に見直しを行ってきました。平成 30 年度からは、以下の 3 点を柱とした新カリキュラムを実施します。

①大学で学ぶ上で基本となる技能や態度を身につけさせるための必修科目「大学教育入門」を新設

②パッケージ別科目と領域科目を統合し、人文社会科学系科目群と自然科学系科目群からなる新たな科目区分（領域科目）を開設

③社会人基礎力の育成に関する科目区分（社会連携科目）を開設

なお、アンケート結果では「教養教育をもっと幅広く学んでおけばよかった」「教養教育が今後どのように役立つか示してもらいたかった」等の意見が例年少なからず寄せられています。在学中に、教養教育の意義を学生に対して明確にするとともに、幅広い領域を俯瞰し、自ら主体的に学び考える能力を涵養するため、現在以下のような取り組みを検討・実施しています。

- (1) 入学直後の「教養教育ガイダンス」や「大学教育入門」（平成 30 年度から）で、大学での学びの意義や、教養教育の位置付けをより分かりやすく伝えられるよう、内容を改善する。
- (2) 教養教育科目において、対話型授業（アクティブ・ラーニング）の導入を推奨し、学生が主体的に授業へ参画することを目指す。
- (3) 新規採用教員および新規に教養教育の授業を担当する教員を主な対象とした研修会を開催し、本学の教養教育の理念・目的を説明し、授業実施に役立ててもらおう。また、FD として教員間の授業参観・研究会を定期的に開催し、継続的な授業改善を促す。

また、教養教育科目では、平成 28 年度から「キャリア教養講座 - 世界に通用する高い社会人を身につける -」を開講し、社会人経験のある方の話を聞いて、将来のキャリアを考えたい学生のニーズに一層応えられるようにしました。

3. 専門教育について

幅広い視野から物事を捉え、高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことの出来る人材育成のための主な取り組みとして、学士課程において次に掲げる教育を行っています。

- (1) 到達目標型教育を実現するための教育プログラムの実施・検証・検証改善
- (2) 問題発見解決能力向上のため教育（PBL教育）
－相手の立場で理解する能力の育成・専門外の考え方を含め、まとめる能力の育成－
- (3) 卒業時における外国語運用能力向上のため全在学期間にわたってのTOEIC(R) L&R I Pテストを実施（グローバル化社会に向けての対応）
- (4) 教育の質保証（授業改善等）のための新任教員研修義務化

大学生活で海外留学が役に立ったという声が多くありました。本学では、留学やボランティア活動といった学生の主体的な学習体験の促進や、授業を短期間で集中的に受講することによる教育効果の向上等を目的として、クォーター制（4学期制）を導入しています。

プレゼンテーションや討論の場があればよかったとのご意見がありましたが、対話・討論や反転授業等のアクティブ・ラーニングを授業に取り入れやすくするため、1クォーターで完結する授業科目は、週2コマ連続（180分）で実施することを原則とし、主体的な学びが実現できる修学環境を整えているところです。今後も引き続き、皆様からのご意見等を踏まえながら検証・改善に努めています。

4. 学生支援について

本学に入学された皆さんが、卒業されるまであらゆる面で充実した学生生活を送れるよう、きめ細やかな学生生活のサポートを行っています。

学生の課外活動については、今後も課外活動施設の維持管理や活動助成など、更なる充実に努めています。また、ボランティア活動についても、学生の皆さんが積極的に参加できるよう情報提供及び活動助成に努めました。

学生への経済支援について、「(授業料)免除申請に時間がかかる。」とのご意見をいただきましたが、平成29年度前期分の授業料免除申請受付から東広島地区において受付予約システムを導入し、申請される学生の方をお待たせすることなく受付することが可能となりました。更に平成30年度からは霞地区及び東千田地区においても同システムを導入してより一層の学生サービスの向上を図ることとしています。

授業料免除や奨学金が受けられて良かったという声が多く寄せられています。本学では、経済支援制度として授業料免除、入学料免除・徴収猶予制度などを実施していますが、広島大学独自の給付型奨学制度である「フェニックス奨学制度」を平成20年度から実施し、平成29年度からは在學生（3年次生から）を対象とした給付型奨学制度である「光り輝く奨学制度」の実施を始め、学力が優秀でありながら経済的理由により大学進学や就学が困難な学生を支援する制度を充実させました。

これらの制度については、広島大学ホームページ（キャンパスライフ情報（学生情報の森もみじ）→ 学生生活のサポート → 経済支援）において情報を提供しています。

今回のアンケート調査で、一番多く上げられました進路・就職についての充実・改善の要望として、就職指導は地元企業が中心で、大手企業に入るための支援ができていない、就職指導に関して、もう少し認知度をあげる活動をしてもらいたい等がありました。主な改善・取り組み内容は次に掲げるとおりです。

- (1) 大都市圏（東京・大阪）での就職活動を希望する学生支援として、就活支援ツアーを企画し、校友会等組織と連携して現役学生と卒業生との交流の場の設定
- (2) 進路が決まった学生の協力を得て、就職活動を行う後輩に対して自らの体験をもとにサポートをもらうキャリアサポーター制度の充実
- (3) 広島大学消費生活協同組合と連携し、教員採用試験対策講座及び公務員試験対策講座を実施
- (4) 東京オフィス等と連携し、首都圏や関西圏で就職活動を行う学生へ休憩スペースの提供
- (5) 広島県、広島市をはじめ、様々な自治体・企業と連携することにより、学生のインターンシップ参加を促進
- (6) 情報を閲覧しやすくするために、グローバルキャリアデザインセンターのホームページを修正
- (7) 就職活動の進め方について、職員が講義形式で指導、また約10人の相談員がグローバルキャリアデザインセンターで面談対応

今後も引き続き、皆様からのご意見等を踏まえ、検証・改善に努めて参ります。